

センニンソウ (キンポウゲ科) の北海道分布

千歳市 五十嵐 博

はじめに

センニンソウ *Clematis terniflora* DC. を初めて見たのは 2003 年の上ノ国町天野川だった。その後は道南の日本海側などで見ることが多かった。数年前にこれまでの分布域から隔離的な分布を示し、北限となる後志地方の蘭越町海岸で確認した。ここから南下して分布調査を行ったので報告する。

分布

センニンソウは、道内では渡島と桧山にある (原 1983)、北海道では渡島半島に自生する (滝田 2001, 梅沢 2007) とされるが、2004 年 9 月 15 日、ニセコ町の池

田郁郎氏の情報により蘭越町港の海岸で確認した。それまでの筆者の確認では奥尻島・神威脇、奥尻②、久遠、貝取潤などがそれまでの北限であり、直線距離で 100km ほど離れ、妙な空白があるので移入の可能性も考えられる。

図 1 に示すとおりセンニンソウの確認地は旧桧山支庁に分布が集中している。図 1 に●印で示した 2.5 万分の 1 地形図名を北から順に列記すると、雷電山・神威脇・奥尻②・久遠・貝取潤・赤石①・赤石②・熊石・渡島鮎川・青苗・相沼・乙部②・江差①・上ノ国・桂岡・函館・五稜郭・石崎・木古内・立待岬・戸井・原口①・原口②・

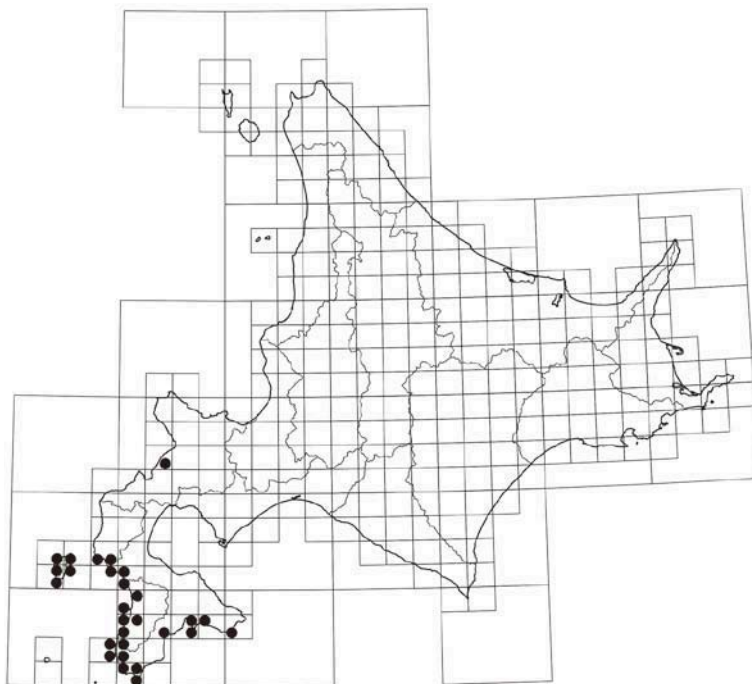


図 1 センニンソウの北海道分布